

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「自分が住みたいグループホーム」をテーマに作成した。	○	地域との関わりも含め、住み良いグループホームになるよう、理念に基づいた利用者支援を行いたい。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務所内に掲示し、日勤と夜勤の引継ぎ終了後に復唱・確認した上でこれを実践している。	○	全職員がもっと理念を認識し、理念に基づいた実践を行なえるよう、ユニット会議等で話し合い、取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議をとおり、理念を理解してもらえるよう伝えている。	○	全ての家族や地域の方々や運営推進会議に参加しているわけではないので、事業所だよりや面会、町内会報を利用して理念を理解してもらえるよう伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者との散歩の際、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしたり、またホーム入り口にベンチを置き、入居者と近隣の人が交流出来るような環境を整えている。	○	挨拶程度しか出来ていない為、より積極的に話しかけるように心掛け、気軽にホームへも立ち寄っていただけるような関係を築きたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。老人会の見学を企画している。	○	行事などを開催する際には、家族や近隣の方々にも案内を出し、積極的に参加してもらい交流を深めていきたい。また、町内の行事や地域活動等にも参加し、交流を図れるようにしていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通しては話しあったが、具体的な活動までには至っていない。		今後も運営推進会議を通じて、町内会や家族からの意見やアイデアを募ってきたい。また、ユニット会議等でも、どんなことで地域に貢献できるのか全職員で話し合い、取り組みに繋げていきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者・職員は、評価の意義を理解しており、前年度の改善点をユニット会議等で話し合い改善に取り組んでいる。	○	年1回自己評価を行ない、改善点については今まで同様ユニット会議等で話し合い改善していく。また、外部評価の結果はを厳粛に受け止め、計画的に改善に取り組みたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を行ない、地域の方々や入居者、家族からの意見や要望を参考にして、サービスの向上に取り組んでいる。	○	今後も継続して、運営推進会議を行い、そこで出た意見や要望を、具体的な活動に繋げていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は、積極的には取り組んでいない。		サービス向上を目指し、市町村との連携の機会を増やしていきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者の勧めで、青年後見人制度の利用にいたった家族がいる	○	今後も必要に応じて、家族と協議し活用していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	地域包括支援センターの職員をグループホームに招き、職員、入居者、家族を交えた勉強会の中で高齢者虐待防止についての話を頂いた。その後、全員で意見交流を行い、虐待防止への取り組みに繋げている。	○	他の講習会等へも積極的に参加し、高齢者虐待防止についての理解を深め、虐待を未然に防げるよう取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約時には、わかりやすい言葉を用い、契約書を見ながら内容を充分説明し、家族と十分に話し合い、理解・納得を得てから署名・捺印して頂いている。	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特定の機会は設けていないが、日頃から入居者が意見、不満、苦情を言いやすいような関係・雰囲気を作るよう心掛けている。また、外部へ意見、不満、苦情を表せるよう、ホーム内に外部機関を掲示している。	○	さらに入居者との関係を深め、意見、不満、苦情を言いやすい環境を作っていききたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会に来られる家族には、来訪時に管理者や職員から最近の生活や身体の状態を報告し毎月手紙でも入居者の暮らしぶりや身体状況を報告している。また、毎月の利用料請求書送付時に現金出納帳と領収書を同封している。	○	継続していききたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時には、職員から積極的に話しかけて話しやすい雰囲気を作ったうえで、意見や、不満、苦情等がないかを聞くように努めている。また、運営推進会議でも家族からの意見や、不満、苦情等を聞くようにしている。玄関には意見箱を設置している。意見等は、ユニット会議等で話し合い、運営に反映させている。	○	今後も、家族が話しやすい雰囲気作りを心掛け、たくさんの意見を頂けるよう関係作りをしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、ユニット会議の場で職員からの意見や提案を聞き、その改善に努めている。管理者は役員との会議や打ち合わせの中でそれらの報告をしている。	○	日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、職員が意見を出しやすい場面作りをしていききたい。定期的な個人面談も行ないたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来るように準備は整っている。	○	維持していききたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動を行うことで影響を受けそうな入居者に対しては、他の馴染みの関係のできていない職員が対応し、ダメージをなくすよう配慮している。	○	異動等により入居者に変化が見られる場合もあるため、馴染みの関係を重視し必要最小限にしたい。離職については極力避けられるよう、職場の雰囲気作りや人間関係に気をつけて、働きやすい環境作りに取り組んで欲しい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は、管理者・職員の段階を把握する為、クリニカルラダー表を用いた自己・上長評価の内容を踏まえ助言・指導をしている。また、教育委員会を設置し、法人内外の勉強会・研修会への参加を促している。</p>	○	運営者に、継続してもらいたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は、職員が地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、センター職員を招いて講師をして頂く機会を設けている。また、管理者がグループホーム協議会の理事をしており、そこでの情報交換の内容を職員に伝え、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	運営者に、その他の地域のネットワーク作りも積極的に行ってもらい、お互いのサービスの向上に繋げたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者が、随時、グループホームへ顔を出し、管理者や職員の勤務状況を観察したり、相談・意見を聞いたりしている。</p>	○	運営者には、休憩時間の確保、人員の確保等の環境づくりに力を入れてもらうよう働きかける。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者や職員は毎年個人目標を設定しており、実現に向け働いている。運営者は自己・上長評価や普段の様子で勤務状況を把握し、助言・指導をしている。</p>	○	運営者に、継続してもらいたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に計画作成担当者が本人と面談し、その時の心身の状態や不安、要望等を聴いている。見学可能な方は、ホームへ来て様子を見てもらっている。</p>	○	継続していきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>見学に来てもらい、管理者や計画作成担当者が不安や要望を聴き、受け止めるようこころがけている。</p>	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人・家族・関係機関から情報収集を行ない、ニーズを見極めている。また、必要に応じて他事業所の介護サービスも検討している。	○	継続していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族・関係機関と情報交換を行い、その情報から職員が日々のケアを検討し、場の雰囲気に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○	継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の入居者の生活歴から、本人が得意としていたことや出来そうなことを検討し、職員と一緒にやる。また、出来ないことに関しては、職員が寄り添い支援することで、信頼関係を築いている。	○	利用者の要望、希望などは、今後も十分聞き入れ、対応していきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時には入居者の身体状況等を伝え、依頼できる支援はお願いしている。また、出来る限りグループホームへ来訪し、入居者とコミュニケーションを取って頂くよう働きかけている。	○	継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	本人と家族との関係を職員が理解し、面会に来た際には家族との時間をゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。3ヶ月に1度は手紙で日常生活の状況を報告したりして、よい関係が築いていられるよう支援している。	○	継続していきたい。
30	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人とは、いつでも電話連絡が出来る環境を整えたり、面会に来て頂けるよう働きかけたりなど支援に努めている。	○	今後は、馴染みの場所との関係も持ち続けられるよう、外出等を行いたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、自然と楽しく会話ができるように、職員が間に入るなどの配慮をしている。	○	継続していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、入院先へお見舞いへ行ったり、転居した先を訪問するなどしている。	○	継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画作成時に必ず、本人・家族の意向を確認し、プランに反映させており、個々の入居者に合わせた暮らしが送れるよう努めている。	○	入居者に関わる時間をより増やし、本人本位に考えられるよう心掛ける。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、センター方式を活用し、家族や関係機関から情報収集を行い、生活暦の把握に努めている。	○	センター方式の勉強会等に参加し、より深く使いこなせるようになる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活シートやケアプラン、ミーティングなどで、入居者個々の生活リズムを職員が把握するよう努めている。	○	入居者の心身状態が変化した時などにも、対応できるよう職員同士の連絡を密にする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の評価時に、本人及び家族の同席のもと担当者会議を開催して意向を聞き、次の介護計画に反映させるよう努めている。また、都合が付かない家族に対しては、面会時に意向を聞くように努めている。	○	より良い介護計画になるよう話し合う機会を多くしていきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施期間を原則的に3ヶ月とし、見直しを行なっている。また、状態に変化が生じた場合は、適時見直しを行なっている。	○	継続していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画をもとに、1日の活動内容を事業所独自の生活シートに記載し、職員全員が把握している。また、毎日のカンファレンスで、介護計画に基づいたサービスの提供を討議し、自立支援に向け取り組んでいる。	○	より良い記録が書けるようにミーティング等で話し合い取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物等の外出の要望や、急変時の連携医療機関との協力等の対応を行っている。	○	より柔軟な対応が出来るようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に1回ボランティアによる音楽療法を開催している。また、緊急時のために消防訓練を行い報告している。		次回は、消防職員を呼んで、消防訓練を行いたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	個々の入居者ニーズに合わせて訪問看護・訪問リハビリなどを利用している。また、訪問理容、訪問歯科、介護タクシーなども積極的に利用している。	○	継続していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	利用者本位のケアマネジメントを継続できるように、地域包括支援センター主催の勉強会などに参加し、意見交換している。	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師のため、主治医と連携をとりながら入居者の健康管理の支援を行っている。また、主治医とは在宅医療管理として、24時間体制で連携している。	○	主治医との連携をより強化していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	直接の関係はないが、必要時には、主治医から専門医に連絡のうえ、対応していただいている。	○	今後は直接の協力を依頼していきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師である。また、医療連携として週1回、看護師が訪問し、日常の健康管理等の支援をしている。	○	継続していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、スムーズに治療が行える様に必要な情報を提供し、退院後も協力医療機関を通じて指導を受けている。	○	継続していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、主治医・家族と繰り返し協議した上で、今後の方針を決めており、職員も主治医の指示に従い対応している。	○	継続していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関と連携し、急変時には速やかに対応が出来る状態にしている。	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族、関係機関を交え話し合いを行い、新しい環境になじめるように努めている。	○	継続していきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常に入居者に対して尊厳や敬意を払い、その人に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。又、個人にかかわる情報は、施設外では一切口外せず、情報の持ち出しも行っていない。	○	職員の接遇能力がより向上するよう、その手の研修会へ積極的に参加してもらおう。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の入居者が適切に理解出来るような説明を行い、いかなる場面でも本人の意思確認を大切にしている。	○	継続していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の入居者のペースを尊重して出来る限り、その日の体調や気分に沿った生活を送れるよう支援している。	○	継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望に沿った洋服を選んだり、化粧をしたりなど、日々の生活の中でもおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。また、理容に関しては本人・家族の要望を聞き定期的に訪問理容を利用している。	○	継続していきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを聞き、出来るだけ取り入れるようにしたり、季節感を楽しめるような食材を使用したりしている。	○	入居者の全体の介護度・医療依存度が高い為、一緒に食事の準備・片づけをすることは、難しいが、出来る範囲で手伝ってもらおう。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体質、健康状態等を考慮しながらも、出来る限り本人の希望に近づいた嗜好品を提供している。	○	継続していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄パターンを把握し、オムツ等の交換時間を考えたり、適したオムツ等の選択している。	○	継続していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間や入浴日は、出来る限り利用者の希望を優先して対応している。	○	継続していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床時刻、就寝時刻、日中の休息の時間は、極端に日常生活に弊害が起こらない限り、個々の入居者の生活リズムに合わせている。	○	継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の入居者の得意な事や好きな事を見極めながら、その人らしく充実した生活を送ってもらうために支援している。	○	継続していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはグループホーム側で預かり金の管理をしているが、家族同意の下、入居者に小額のお金を渡し、入居者はその分のお金を所持・管理している	○	継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の要望に応じて外出支援を行っている。季節感を感じてもらおうという観点から、出来るだけ多くの外出行事を行っている。	○	継続していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者や家族との会話から要望を探り、外食や外泊等を積極的に支援している。	○	継続していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者から希望があった場合には、家族等に電話をかけて話をしてもらっている。	○	継続していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や友人等が訪問した際には、ゆっくり過ごしていただけるようお茶を出すなど配慮している。	○	より訪問しやすい環境づくりをしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本人の嫌がる行為はせず本人の意思を尊重している。身体拘束の事例はない。研修会等に積極的に参加し、理解に努めている。	○	継続していきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の施錠は行っておらず、外出希望の入居者に対しては職員と一緒に行動するなど、常に入居者の行動を把握し対応している。	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中居室へ入るときには、入居者に断ってから入ったり、トイレ使用時の声かけなどは、他の入居者に聞こえないよう、耳で声かけする等のプライバシーへの配慮を行っている。また、日中は勿論、夜間は2時間ごと居室の見回りをし様子把握するなどして安全への配慮をしている。	○	継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の入居者の状態に応じて、保管物品、保管場所を決めている。	○	継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全対策委員会を設置し、外部研修会に参加を促したり、内部勉強会を行ったりすることにより知識を学んでいる。また、事故につながりそうな個々のケースについては、ミーティング等で対策を話し合い、防止に取り組んでいる。	○	継続していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防による普通救命講習を年2回行い、全員が1回は受講することになっている。	○	継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火器を設置し、定期的に点検等を行っている。また、災害時に入居者が速やかに非難できるよう消防訓練を行っているほか、地域に対しては、民生委員を通して地域に協力を依頼している。		地域の人々も参加しての消防訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況の変化が見られた際には、家族に訪問時や電話での連絡を行い、起こりうるリスクや今後の対応を説明し理解を得ている。	○	継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日、バイタル測定を行っている。変化が生じたときにはまず管理者(看護師)に連絡し、管理者の指示のもと連携医療機関への連絡等必要な対応を行っている。また、その都度記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤情報提供書を毎日の記録と共にファイルし、職員は常に確認している。服薬の支援も毎回注意しながら行っている。症状の変化等見られた際には、直ちに協力医療機関に連絡し、指示を受けている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便チェックリストを作成し、毎日確認している。トイレに行った際には、腹部マッサージを行い排便を促している。水分をこまめに取ってもらうことを心掛け、便秘の予防を行っている。</p>	<p>○</p> <p>より良い方法を工夫し、実行していきたい。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、入居者ごとに専門のものを使い口腔ケアを行っている。入れ歯の方は毎回職員が歯ブラシにて洗浄し、夜間は洗浄剤につけている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の入居者に合わせて、量や栄養バランスを変えるなどの支援を行っている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルがあり、それに基づいて実行している。また、インフルエンザ等の流行時には、入り口に張り紙をして家族等にもうがい、手洗いを呼びかけている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品衛生管理マニュアルがあり、全職員が把握し実行している。	○	継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にプランターを置いたり、ベンチを置いたりして気軽に休息したり、立ち寄れる雰囲気を作っている。	○	より工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りを壁に飾ったり、入居者が作った作品等も飾っている。また行事で撮影した写真等も貼って、家族が気軽に見ることが出来る様にしている。不快な音、光が無いようにも配慮している。	○	より工夫をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置いて、休憩の場を設けたり、畳の空間があり、気軽に休息できるようにしている。また裏庭には、家庭菜園が行える畑があり、好きなときに耕したり、目の前のベンチに座りお茶を飲みながら、談話ができる空間がある。	○	より工夫をしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の家族に、在宅時に使用していた家具や、使い慣れた物を持ち込んでもらうようし、それらを使用するようにしている。	○	より工夫をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は充分に行っている。また、冷暖房設備が整っている為、温度調節は小まめに行っている。冬期間は暖房による乾燥を防ぐため、加湿器を使用している。	○	継続していきたい。

グループホームあけぼのⅣAユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内は完全バリアフリーで、ホールや廊下も車椅子が通りやすいよう、広々としたスペースを設けている。安全面に関しては、ホール・廊下・居室全てに手すりを設置している。また、トイレも自立用と車椅子用があり、個々の入居者の身体状況に合わせて利用している。</p>	○	より工夫をしていきたい。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所を分かりやすいように、通路やドアの前に張り紙をしたり、各居室の前に写真や手づくりの作品を貼って、自分の居室だと分かるような配慮をしている。</p>	○	より工夫をしていきたい。
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>裏庭に花や作物を植えるなどして、活用している。</p>	○	より楽しんでいただけるように工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】